

全国统一要求 (抜粋)

- 1. 全ての公共工事現場で直接工事費分の単価支払いを実現
- 2. 碎石、砂利、砂、合材などの骨材運搬の収入も1日4万円以上に
- 3. 過積載復活させるな



発行所
全日本建設交運一般労働組合
東京都新宿区百人町 4-7-2
電話 03(3360)8021
毎月25日発行
1部 50円

11.5政府要請行動 過積載問題を追及



会員企業へ過積載ダンプの受け入れを止めさせてください。(11月5日東京・全生連合会本部)



国交省と同じ指導事項を元請業者に徹底してください。(11月5日東京・日本スポーツ振興センター)

警察庁 背後責任の追及なくして 過積載の根絶は成し得ない

全ダンプ

全国ダンプ部会は11月5日(木)、警察庁、全生連合会へは、会員企業による資材の買いたたき防止策、過積載ダンプの受け取り拒否などの要請行動をおこないました。大都市圏を中心として、横行している過積載ダンプの実態を告発し、警察庁に対しては過積載の背後責任の追及強化(荷主・荷受人)とダンプの盗難対策強化を要請しました。今回の要請行動は部会四役がおこなわれました。

所)の実態把握に努めている」と回答しました。山内副部長は「組合員のダンブが盗まれた際の警察署員の対応が消極的であった」「ヤードの対策は、本庁の方から各自治体との統一した連携強化を各県警に促して欲しい」と述べました。

警察庁では、山内健人副部長が平成5年の道路交通法改正の国会審議記録を示し、「ダンプの過積載防止対策には、背後責任の追及が効果的であることが当局からも示されている。しかし、この間再発防止命令の発令はゼロ件だ。法改正の主旨が生かされていないように思う」と述べ、背後責任の追及を強化するよう求めました。対応した交通指導課・井口雅博課長補佐は「過積載に対する背後責任(下命・容認、両罰規定)の検挙件数は強化されている。全国で限られた体制の中で努力していることは認めて欲しい」と回答しました。森谷稔部会長からは沖繩の実態を紹介し、高橋英晴事務局次長も神奈川県横浜市内の過積載ダンプへ

の所轄の対応を伝えました。ダンブの盗難対策については、捜査一課・上羽浩行課長補佐が「自動車盗難は暴力団や外国人による犯罪の温床となっている。関係する部署との合同・共同捜査を実施している」、組織犯罪対策部・岡部誠幸課長補佐は「盗難車両の解体や改造に使用されているヤード(全国二、一〇〇カ

増えている」と会員企業に対する改善措置を求めました。新任の原田修輔常務理事は「コンプライアンス委員会を次年度中に発足する予定でいます。本日の要請内容も反映させていきたい」と回答しました。

全生連合会では、山内副部長は、「過積載ダンプの受け入れを拒否し、法令遵守を徹底することが業界にとって必要な措置だと思う。最近ではトレーラ車による過積載も

元請が過積載を強要 使用促進措置の徹底を NSC

日本スポーツ振興センター(NSC)では、「旧国立競技場」の解体工事で栃木ダンプ支部の組合員が過積載で検挙された問題を言及しました。山内副部長が「振興センターは過積載検挙について把握しているのか?」と問うと、国立競技場設置本部・阿部英樹施設部長は「ダンプの積み荷は、現場を出る際に計測している。検挙された方から連絡が入り、元請にも確認したが、その日は偶然多く積んでしまったとの報告があった」と述べました。しかし、改めて違反切符とセンター側の計測記録を見ると「3トン以上の誤差が発覚し、元請側の改ざんが明らかになりました。その他にも現場周辺での「信号無視、過積載」の写真を紹介し、国立競技場の建設については国交省と同じ「指導事項」を元請に徹底するように要請しました。阿部施設部長は「すでに工事発注をしているので、指導事項の確認をおこない、元請へ徹底する方法については検討します」と回答しました。(関連記事2面に掲載)



旧国立競技場解体現場で休けいなしの為、赤信号でも運行するダンプ（東京都内8月末頃）

旧国立競技場解体工事で 過積載の強要が常態化

栃木ダンプ 元請が計測データ を改ざん 国は過積載防止対策を急げ

現在、二〇二〇年の東京オリンピックの開催に合わせて、東京都新宿区内で国立競技場の建設が進められています。前回の東京オリンピックに向けて建設された「旧国立競技場」の解体工事が今年9月末までおこなわれました。

栃木ダンプの組合員となったKさんは、北工区（元請フジムラ）の解体現場から搬出する残土搬出の仕事に従事していました。ところが工事が始まると、ある工区では下請重機が5割以上の過積載を強要し（断れば出入り禁止、何

人もダンプ労働者が検挙されました。Kさんも同工区からの残土を運搬中に白バイに検挙されました。Kさんはあと少しで免許証の処分履歴が抹消される所でした。勇気を出して「積み荷は国立競技場の解体工事現場から出された残土だ。積みたくて積んでいるわけではない。今から一緒に現場へ来てほしい」と白バイ隊員に言いましたが、「これは運転手さんの問題だから」と言われて反則切符を切られた。Kさんは「朝から走りっぱなしで昼休みも

改ざんしています。他に検挙されたダンプ労働者は泣き寝入りしています。振興センターが報告を求めると元請は、「当日は雨が降っていたため、残土の量が重くなった。計測した際に重さが判明したため重機オペが降ろそうとしたが、ダンプが急いでいたため、そのまま行ってしまった」とKさんに責任転嫁しました。もう追及する為に2重3重にウソをつき、ダンプに責任を押し付けるやり方は絶対に許せません。今後の新競技場工事では、国交省と同じ「指導事項」を徹底させ、建交労働者の使用促進措置を取らせ、過積載根絶、適正単価の支払いを求める運動を広げます。

2年連続で組織純増 単価闘争で奮闘しよう 広島ダンプ

建交労働者広島ダンプ支部は10月25日（日）、広島市内で第31回定期大会を開催し24人が参加しました。小林豊数議長は「建設労働者の賃金アップには担い手は確保できない、我々の運動が必要だ」と強調、「来年の参議院選挙では自民、公明の議員を落選させ、戦争法廃止の連合政府を作るため、労働組合として頑張ろう」と呼びかけました。

山田昭夫事務局長は、活動報告と会計報告をおこない、ダンプキャリアバン、過積載防止連絡会議、交通安全講習会の取り組み、生公連活動の内容を報告し、業界・行政にも影響力を増して来たことと報告し「単価引き上げの使用促進闘争」を前進させることを強調しました。組合員拡大では、2年連続組織純増で大会を迎えたこと、二〇〇名の組合復活に向けて、来年の大会まで一六〇人の組織実現を提起



200名復活の組織をめざし、拡大と使用促進闘争で奮闘しよう（10月25日広島県広島市内）



組織結成30年目の節目。組織拡大を強化し、要求闘争を前進させよう（10月25日北海道夕張郡長沼町内）

しました。経過報告と会計報告や新年度方針・予算案などを採択し、若い専従役員を含む新執行部を選出しました。

- 役員体制**
- 議長 小林 豊数
 - 副議長 高見 秀雄
 - 事務局長 吉岡 年春
 - 事務局長 山田 昭夫
 - 事務局次長 武田 喜成

結成30年目の節目 組織拡大で奮闘しよう 札幌ダンプ

札幌ダンプ支部は10月25日（日）に札幌市の労働センターで、組合員20人が参加し第30回定期大会を開催しました。田家執行委員長のあいさつでは、「公共工事設計労務単価が、3年連続で引き上げられているなか、北海道では、8時間稼働しても3万円程度、1時間4千円前後という厳しい状況が続いている」こと等

が話されました。議案の運動方針案では、①憲法と平和を守るため今後も戦争法廃止に向けた行動へ積極的に参加することなど、国民的諸課題の取組み。②消費税増税や物価上昇による生活苦を打開すべく、社会資本整備の現場で働く車もちダンプ労働者の労働条件改善の為、また結成から30年目の節目を迎えたことからより一層組合の組織拡大に努めることなど積極的な取り組みを提案し、全会一致で採択されました。

最後は田家執行委員長の音頭で「団結がんばろう」を三唱して大会を終了しました。

役員体制

- 執行委員長 田家 司
- 副執行委員長 阿部 守男
- 書記 他2名
- 書記長 平田 和之
- 書記次長 榎山 博幸